

写真でみる浪曲人生
あずまやさんらく
東家三楽

写真・森幸一ほか 文・おさだ衛

真摯な三楽師に大石内蔵助の姿を見た



汗がとび散り鍛えあげた声が響きわたる。76歳とは思えぬ舞台の迫力。「浪曲は自由な節と自由な三味線と同じ演題にしても毎回出来がちがいます」。「あれが浪曲協会会長の芸かと笑われないように舞台をつとめたい」と協会を率いる責任感と使命感が、ひしひしと伝わってくる。女性協会員の支持も高い三楽師だ。

日本浪曲協会の会長に就任して2年。三楽師のもと、浪曲の復活に向けてさまざまな試みが、なされている。会長として、また浪曲生活60年に及ぶ演者としての三楽師に抱負を聞いた。「会長といっても偉くもなんともないんです。協会員が一致団結して、浪曲界の隆盛を図ろうとしています。一人だけがいい思いをするんじゃないやなくて、結束が大事なんです」



昭和24年の千葉県での巡業。前列みぎが恩師・東家三楽。師匠は芸者遊びもしろといった。私の芸は師の半芸にも及ばないが、女遊びは人一倍したね。ははは」と当時は東家若燕(じゃくえん)の三楽師(写真後列、右から二番目)。前列、左から一番目は『唄人観音経』の三門博師。

その団結が11月の初旬に開催された「桃中軒雲右衛門忌」や「雲右衛門ま

つり」に結実している。(詳細は次号の本誌)

「昨年から雲右衛門忌をさらに盛大に行なっています。浪曲中興の祖である雲右衛門を世間に強くアピールして浪曲の存在を訴えたいんです」

桃中軒雲右衛門は三楽師の大師匠でもある。三楽師の師匠の東家三楽(あずまやさんらく)が雲右衛門の芸養子だったからだ。三楽師の「南部坂雪の別れ」は楽燕ゆずりで貴重な雲右衛門ぶしが偲ばれる。

「会長の立場としては地方都市で浪曲大会を開催したい。大宮、川崎などでね。地方では、まだまだ浪曲を要望する声は強い。その需要に応えることと演じる場の拡大ですね」

寄席や大会が少ないと芸が磨けない、稽古百回は一回の舞台にかなわないと三楽師は力説する。

「木馬亭はいろどりの良いメンバーを揃えてファンサービスをする定席で、とても大切です」

最近はお江戸にお江戸広小路亭という寄席が出来て、毎月、月末の日曜日と月曜日に公演していますので、どうぞ、のぞきに來てください」

また、師は個人的に東京は下落合で「竜の湯浪曲名人寄席」を月に一度、まる5年間、行なっている。竜の湯という銭湯の二階で開かれているが、出演者も選りすぐりで充実している。

「お客さまも毎回60人ほどいらしてもらって、ありがたいですよ。会として

は定着しました。毎月毎月、会を開くのは骨が折れますが、これも浪曲のためだと思つてがんばつてますよ」

浪曲発展のために欠かせないのが若手の育成だ。三楽師も富士鷹雄、路子、琴美などを鍛えている。また、協会では演者を支える曲師の養成も行っている。

三楽師の師匠・楽燕について、うかがうと、

「私が14歳で入門したとき師匠は50歳を越えていて、ずいぶんなお年寄りだと思つたけど、芸はすごかった。泣かせる外題だと場内がハンカチで真つ白になつたもの」

師匠の教えは、
「芝居、落語、講談と芸はなんでも見ろ、芸の活力になるとね。」

あんな名人の師匠でも、うまく演れたことは一年に3回もないといつてました。私も60年ちかく演つてますが、浪曲は本当に奥が深いです」

60年間、熱演に次ぐ熱演。その健康



昭和30年。全国を巡業し、特に東北地方や北海道では根強い支持を得た。

の秘訣は、

「食べ物には気を使つてます。中国の蜂蜜や朝鮮人参も口にします。健康器具は鉄アレイから足と腹筋を鍛えるものからゴマンと揃えてある」

芸人として大事なことは、
「若さと色気を保つことですね。あんまり自分の年齢のことは考えないの。お客さん、とくに女性ファンを増やさなくてはと思つています」

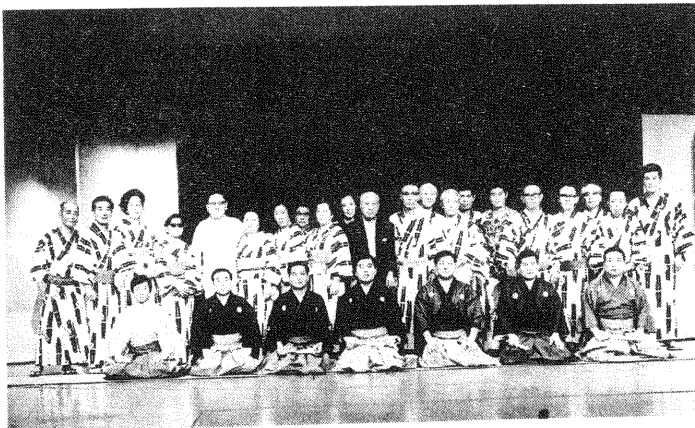
あと10年は働くと現役宣言をする三楽師だ。浪曲の今後はいかがですか。
「いまは舞台で声を出して1分間で、お客がつかめないとダメな時代なんで



昭和45年。春日野親方(元・栃錦)と。「親方とは兄弟同様のつきあいをしよう、と言ひ合つた仲でした。昔から浪曲と相撲取りは特別に親しい間柄でもあつたんです」。三楽師には横綱・双葉山から送られたテール掛もある。

す。とにかく読み物以外にないですね。徹底的に泣かせるか笑わせるか。新しい読み物を作る、または発掘するか。研究しています」

頭の中は浪曲だけという三楽師。チャリ(笑い)が得意な師だが浪曲の将来を熱く語る様子に「南部坂雪の別れ」の沈着にして大望を胸に秘めた大石内蔵助の姿が重なつた。



昭和48年、新宿コマ劇場。互いの親睦と浪曲の発展を願つた「二代目会」。前列左から、現・玉川勝太郎師、二代・梅原秀夫、三楽師、二代・篠田美、二代・相模太郎、二代・鹿島秀月、三代・広沢虎造。

浪曲... これほどすばらしい芸は他にはないと思います。

34
52

浪曲家の皆さん... 頑張って下さい。
多くのファンを楽しませて下さい。

葛飾区・坂本豊吉